

42 明治6月10月26日 菊池長閑宛

第拾七号 十月廿六日認む

(長閑注記)

頃日大須賀妹夫より一封相達披見仕候所具能も男子を安産致候趣
誠に悦ハしき事ニ候然るに産後直ニ御引取被下候由就而ハ養乳
之不足る乳女等大須賀ニて懺候所是も暇を請去り児ハ飢叫ニ不
堪景状不忍見冉三具濃御返し之儀願候共永く預と之御挨拶故実
ニ窮迫之至依而私ニ御返之事周旋致暮候様申越候其文意私を以
而解候得ハ或ハ嘆し又ハ恨むか如く哀願スル如論談するニ似而
実ニ私ニ於て分り兼候併否返答を得度旨申候故何分大趣意を不
知ば尊前より伺候上何れ共相談可致旨前紙ニ申遣候大凡ハ愚察も
有之候得共一応為御知被下度不可申事ハ不述候間必ず其辺御心
置不被下候やと奉希候一体婚姻之事ハ此頃頻ニ新聞紙ニも見得
候通勤もすれば離縁ニ相成候事日本之野俗ニ候得ハ何分兩人之
意見ニ隨度者ニ候然共具濃の如きハ未タ廿歳下ニ候得ハ自分一
己の意見も無覚束候間何分ニも御添心被下度奉希候○転舎以来
愈勉強ニ相成嬉しく存居候○那珂ニても木戸參議之世話ニて第
三大区小五ノ区牛込仲町元仲御徒町ニ家を求め候委細ハ藤村源藏より
御聽被下度候先ハ荒々申上候頓首

御尊父様

御座下

武夫拝

(長閑注記)
〔朱題〕
「[十一月一]日達し返事此方十九号ニ而同八日郵便へ出し」】